

米国 リンゴの輸出量は前年同期比47%増

[FreshFruitProtal](#) 2024年3月20日

米国農務省が火曜日(19日)に公表した最新のデータによると、昨年8月から今年1月の期間の米国のリンゴ輸出量は10億ポンド(約45万トン)を超えた。これは、前年同期比で47%の増加であった。

輸出量の増加を牽引したのは、米国産リンゴの主要輸出先であるメキシコで、2022-23年度の2億500万ポンドから今シーズンは2億9,900万ポンドに急増した。

輸出の成長を押し上げているもう一つの市場はインドである。インドが2023-24年度の出荷シーズンに米国産リンゴに対する20%の報復関税を撤廃したのを受けて、シーズン半ばまでの輸出量は2022-23年度のシーズン合計の16倍となった。

報復関税が課される前、ワシントン州は1億2千万米ドル相当のリンゴをインドに輸出していた。最も減少した時期には、ワシントン州の生産者は100万米ドル未満しか輸出していなかった。

2024年1月までに米国はインドに約3,900万ポンドのリンゴを輸出したが、昨シーズンの同時期の輸出量は58万4千ポンドであった。

米国農務省によると、リンゴの関税撤廃をはじめ米国政府が2023年に交渉した様々な貿易政策により、米国の農産物生産者と様々な農産物の輸出業者は、64億ドル近くの潜在的な市場へのアクセスを獲得した。

台湾でも、米国産リンゴの輸出は2022-23年度の5,150万ポンドから今シーズンは1億2,300万ポンドへと目覚ましい成長を遂げた。米国は引き続き、この市場へのリンゴの主要な供給国となっている。

中国向けも増加傾向にある。同国のシェアは総輸出量の1%強に過ぎないものの、今シーズンの出荷量は84%増加し、1,900万ポンド以上となった。

コロンビアも、昨シーズンの輸入量がわずかに660万ポンドに落ち込んだ後、米国産リンゴの需要を回復しつつあると見られる。今年の輸出量は3千万ポンドを超えた。

今年は米国のリンゴにとって歴史的な年であり、105億ポンド以上の生産が見込まれている。記録的な収穫は、生産者にとって予期せぬ課題をもたらした。供給過剰である。

インドなどの市場への拡大により、生産者は果実を販売し、価格を安定させるチャンスが増加した。

執筆者: セバスチャン・ラミレス